

事務事業名		図書館維持管理事業		事務事業の性格	毎年繰返事業	開始年度 事業期間	平成 元 年度から 平成 年度まで		
所属 部門	社会教育課 図書館係			課長名	日下 勝祐	担当者名 内線番号	藤澤 英樹 内線 ( 507 )		
総合 計画 体系	基本目標	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり		予算 科目	会計区分	款	項	目	予算上の事業名
	政策名	豊かな心を育む人づくりの推進			一般	9	5	3	図書館維持管理事業
	施策名	生涯学習の推進			一般	14	3	2	災害復旧事業(図書館施設)

法令根拠 図書館法(昭和25年4月30日法律第18号)

現状把握の部(Do) → 現在やっていること

◇事務事業の目的と効果

1.手段(事業の概要)

施設、建物、敷地内の維持管理  
各種統計業務、利用の管理

5.活動指標(手段や活動内容を表す指標)

	名称	単位
①	図書館維持管理費	円
②	図書館と敷地内施設等	施設数
③		

2.対象(何を対象にしているか~人、公共施設、自然資源など)

建物、敷地内施設、図書館利用者、町民

6.対象指標(対象の大きさを表す指標)

	名称	単位
①	図書館施設面積	m <sup>2</sup>
②	図書館敷地面積	m <sup>2</sup>
③	図書館資料貸出者数	人

3.意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか)

利用環境の快適さ及び利用者数を増やす

7.成果指標(意図の達成度合を表す指標)

	名称	単位
①	蔵書冊数	冊
②	図書館資料貸出者数	人
③		

4.結果(どんな結果に結び付けるのか)

生涯学習の場の提供、図書館の有効活用並びに快適な環境の維持

8.上位成果指標(結果の達成度合を表す指標)

	名称	単位
①	図書館資料貸出者数	人
②	貸出冊数	冊
③		

◇総事業費・指標等の推移 → 事務事業及び各指標の変更  有 (年度から)  無

内 訳		単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (予算・目標)	31年度 (目標)	32年度 (目標)	33年度 (目標)	34年度 (目標)
投入 量	国・道支出金	円							
	地方債	円							
	その他(使用料等)	円	22,724	542,626	131,000				
	一般財源	円	14,379,861	16,037,417	17,160,000				
	事業費計(A)	円	14,402,585	16,580,043	17,291,000	0			
	正職員従事人数	人	2	2	2				
	人工数(業務量)	年間	0.4996	0.5062					
人件費計(B)	円	4,116,490	3,938,016						
トータルコスト(A)+(B)	円	18,519,075	20,518,059	17,291,000	0				
活動指標	①	円	14,402,585	16,059,043	17,291,000				
	②	施設数	2	2	2				
	③								
対象指標	①	m <sup>2</sup>	1,469.18	1,469.18	1,469.18				
	②	m <sup>2</sup>	9,322.41	9,322.41	9,322.41				
	③	人	39,047	37,041	38,000				
成果指標	①	冊	133,092	128,829	129,000				
	②	人	39,047	37,041	38,000				
	③								
上位成果指標	①	人	39,047	37,041	38,000				
	②	冊	169,498	164,255	170,000				
	③								

◇事務事業の環境変化

1.この事務事業を開始した背景  
平成元年度図書館開館から開始。

2.事務事業を取り巻く状況と今後の予測(どう変わったか、どうなるか)  
経年劣化が目立つようになってきているが、適切にメンテナンス・改善・改修を行い、利用者が快適に過ごし、多種多目的にいろいろな方が集うことが出来、憩うことの出来る施設となるよう維持管理を行う。

事務事業名	図書館維持管理事業	所属部門	社会教育課	図書館係
-------	-----------	------	-------	------

◇町民等からの意見・要望 → 町民の声をどう反映させたのかをシート下段の改善・改革の概要に明記

1.町民等からの意見・要望  この事務事業に対して、町民からのホットボイスなどの広聴制度、また、議会や関係者からの意見・要望が寄せられているか	<input checked="" type="checkbox"/> 意見がある【具体例↓】 駐車場区画について、トイレについて、ほか	<input type="checkbox"/> 特定できる意見がない
	※反映させた具体案はシート下段の改善・改革の概要に明記	

評価の部(See) → 29年度実績からみた評価

目的妥当性評価	1.町の関与の必要性  なぜ、この事務事業は税金を投入して、町が行わなければならないのか	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性はある【理由↓】 町所有施設である。	<input type="checkbox"/> 必要性はない【理由↓】
	2.対象と意図の拡大・縮小余地  対象・意図を広げたり、逆に狭めたりすることはできないか	<input type="checkbox"/> 拡大・縮小できる【→改革改善案へ】 当該施設、当該施設利用者を対象とした事業である。	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大・縮小できない【理由↓】
有効性評価	3.成果の向上余地  事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができるか	<input checked="" type="checkbox"/> 向上できる【→改革改善案へ】 利用者数増を図る。	<input type="checkbox"/> 向上できない【理由↓】
	4.廃止・休止・類似事業との統廃合余地  事務事業を廃止・休止・統廃合した場合、支障があるか	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止・休止・統廃合で影響がある【理由↓】 所管の他事業にも影響が大である。	<input type="checkbox"/> 影響がない【→改革改善案へ】
効率性評価	5.事業費(トータルコスト)の削減余地  成果を下げずに事業費・業務時間を縮減する手段・方策はないか	<input type="checkbox"/> 削減できる【→改革改善案へ】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減できない【理由↓】 これまで経常経費縮減を重ねてきたが、外壁、電気施設等大規模更新がこの10数年の間に控えており、支出見込の減は困難である。
公平性評価	6.受益と負担の適正化余地  提供すべき対象へ提供できているか、費用負担が適切になっているか	<input checked="" type="checkbox"/> 受益・負担が適正である【理由↓】 受益に対する負担を求めることができない事業。	<input type="checkbox"/> 受益・負担が適正でない【→改革改善案へ】

改革・改善の部(Plan) → 上記の町民等の意見・要望や評価結果を受けた改革案・今後(30年度以降)の計画

30年度の取組	1.改革・改善案の概要(現状で想定される課題や解決策がある場合には合わせて記入) ■安全(アスベスト、樹木管理、ほか) ■長寿命化(外壁基本設計) ■保全・更新(玄関マット、消火器、ほか)を中心に維持・快適な施設運営に努める。	改革・改善実施の方向性																							
		予算増大	2.改革・改善による期待成果																						
31年度以降の取組	竣工後30年を迎え大規模更新時期に差し掛かるが、計画的に維持管理に取り組む。	<table border="1" style="text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			○	低下			
				コスト																					
削減	維持			増加																					
成果	向上																								
	維持			○																					
	低下																								

※町民等の意見・要望に対する検討結果

駐車場についての意見→セーフティーコーンの設置により対応  
トイレについての意見→表示により対応

事務事業名		図書館協議会運営事業			事務事業の性格	毎年繰返事業	開始年度 事業期間	昭和 平成	年度から 年度まで	
所属 部門	社会教育課 図書館係				課長名	日下 勝祐		担当者名 内線番号	藤澤 英樹 ( 507 )	
総合 計画 体系	基本目標	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり			予算 科目	会計区分	款	項	目	
	政策名	豊かな心を育む人づくりの推進				一般	9	5	3	図書館協議会運営事業
	施策名	生涯学習の推進								

法令根拠 図書館法(昭和25年4月30日法律第118号)

現状把握の部(Do) → 現在やっていること

◇事務事業の目的と効果

1.手段(事業の概要) 芽室町図書館協議会の開催	→	5.活動指標(手段や活動内容を表す指標)
2.対象(何を対象にしているか～人、公共施設、自然資源など) 芽室町図書館協議会委員		6.対象指標(対象の大きさを表す指標)
3.意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) 図書館運営に対して意見を述べていただく		7.成果指標(意図の達成度合を表す指標)
4.結果(どんな結果に結び付けるのか) 図書館利用者の増加		8.上位成果指標(結果の達成度を表す指標)

名称	単位
① 協議会の開催回数	回
②	
③	

名称	単位
① 協議会委員	人
②	
③	

名称	単位
① 述べられた意見の件数	件
②	
③	

名称	単位
① 図書館資料貸出者数	人
② 図書館事業参加者数	人
③	

◇総事業費・指標等の推移 → 事務事業及び各指標の変更  有 (年度から)  無

内 訳	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (予算・目標)	31年度 (目標)	32年度 (目標)	33年度 (目標)	34年度 (目標)
事業費 投入量	国・道支出金	円						
	地方債	円						
	その他(使用料等)	円						
	一般財源	円	102,814	103,426	128,000			
	事業費計(A)	円	102,814	103,426	128,000	0		
	正職員従事人数	人	2	2	2			
	人工数(業務量)	年間	0.0226	0.0054				
人件費計(B)	円	186,214	42,010					
トータルコスト(A)+(B)	円	289,028	145,436	128,000	0			
活動指標	①	回	2	3				
	②							
	③							
対象指標	①	人	8	8	8			
	②							
	③							
成果指標	①	件	33	32	32			
	②							
	③							
上位成果指標	①	人	39,047	37,041	38,000			
	②	人	12,996	10,548	11,000			
	③							

◇事務事業の環境変化

- 1.この事務事業を開始した背景  
平成元年度開館により、法令で定められた協議会を設置
- 2.事務事業を取り巻く状況と今後の予測(どう変わったか、どうなるか)  
住民中心の公共図書館運営において図書館協議会の意義は大きい。

事務事業名	図書館協議会運営事業	所属部門	社会教育課	図書館係
-------	------------	------	-------	------

◇町民等からの意見・要望 → 町民の声をどう反映させたのかをシート下段の改善・改革の概要に明記

1.町民等からの意見・要望  この事務事業に対して、町民からのホットボイスなどの広聴制度、また、議会や関係者からの意見・要望が寄せられているか	<input type="checkbox"/> 意見がある【具体例↓】	<input checked="" type="checkbox"/> 特定できる意見がない
	※反映させた具体案はシート下段の改善・改革の概要に明記	

評価の部(See) → 29年度実績からみた評価

目的妥当性評価	1.町の関与の必要性  なぜ、この事務事業は税金を投入して、町が行わなければならないのか	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性はある【理由↓】	<input type="checkbox"/> 必要性はない【理由↓】
	地方公共団体・教育委員会が図書館協議会の設置・委員の任命等を行う。		
有効性評価	2.対象と意図の拡大・縮小余地  対象・意図を広げたり、逆に狭めたりすることはできないか	<input type="checkbox"/> 拡大・縮小できる【→改革改善案へ】	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大・縮小できない【理由↓】
	図書館協議会の枠外の意見等は広聴活動となる。		
効率性評価	3.成果の向上余地  事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができるか	<input type="checkbox"/> 向上できる【→改革改善案へ】	<input checked="" type="checkbox"/> 向上できない【理由↓】
	意見数の増ではなく、意義深い意見を図書館運営に結びつけることが目的である。		
公平性評価	4.廃止・休止・類似事業との統廃合余地  事務事業を廃止・休止・統廃合した場合、支障があるか	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止・休止・統廃合で影響がある【理由↓】	<input type="checkbox"/> 影響がない【→改革改善案へ】
	事業検証機能の減。		
公平性評価	5.事業費(トータルコスト)の削減余地  成果を下げずに事業費・業務時間を縮減する手段・方策はないか	<input type="checkbox"/> 削減できる【→改革改善案へ】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減できない【理由↓】
	全庁統一単価で最大の効果を発揮すべく運営している。		
公平性評価	6.受益と負担の適正化余地  提供すべき対象へ提供できているか、費用負担が適切になっているか	<input checked="" type="checkbox"/> 受益・負担が適正である【理由↓】	<input type="checkbox"/> 受益・負担が適正でない【→改革改善案へ】
	受益者が存在しない事業。		

改革・改善の部(Plan) → 上記の町民等の意見・要望や評価結果を受けた改革案・今後(30年度以降)の計画

30年度の取組	1.改革・改善案の概要(現状で想定される課題や解決策がある場合には合わせて記入)  開館30周年記念事業実施にあたり、協議会をはじめ、ボランティアとも連携を密にして読書振興・図書館振興に大きな成果を生む年度となるよう取り組む。	改革・改善実施の方向性																							
		現状維持	2.改革・改善による期待成果																						
31年度以降の取組	協議会実施、研修参加など。	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																					
削減	維持			増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								

※町民等の意見・要望に対する検討結果

事務事業名		図書館ボランティアサークル活動支援事業		事務事業の性格	毎年繰返事業	開始年度 事業期間	平成 2 年度から 平成 年度まで
所属部門	社会教育課 図書館係			課長名	日下 勝祐	担当者名 内線番号	白取 詩絵里 ( 507 )
総合計画体系	基本目標	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり		予算科目	会計区分	款	項
	政策名	豊かな心を育む人づくりの推進			一般	9	5
	施策名	生涯学習の推進					
法令根拠				図書館法(昭和25年4月30日法律第118号)			

現状把握の部(Do) → 現在やっていること

◇事務事業の目的と効果		5.活動指標(手段や活動内容を表す指標)													
1.手段(事業の概要) 図書館で活動するボランティアサークル4団体と個人ボランティアに活動の場を提供。図書館事業への参画。 *おはなし会の実施(1団体)*布の絵本作製・寄贈(1団体) *人形劇の開催(1団体)*朗読、音訳CD制作(1団体)		<table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>①</td><td>サークル数</td><td>団体</td></tr> <tr><td>②</td><td>個人ボランティア参加事業数</td><td>個人</td></tr> <tr><td>③</td><td></td><td></td></tr> </table>		名称		単位	①	サークル数	団体	②	個人ボランティア参加事業数	個人	③		
名称		単位													
①	サークル数	団体													
②	個人ボランティア参加事業数	個人													
③															
配架ボランティア、支援ボランティア、装備ボランティア、日曜おはなし会ボランティア、大人のためのお話し会おはなしポケット(計5事業)		6.対象指標(対象の大きさを表す指標)													
2.対象(何を対象にしているか～人、公共施設、自然資源など) 図書館ボランティアサークル4団体と個人ボランティア5事業の活動		<table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>①</td><td>団体の会員数</td><td>人</td></tr> <tr><td>②</td><td>個人ボランティア</td><td>人</td></tr> <tr><td>③</td><td></td><td></td></tr> </table>		名称		単位	①	団体の会員数	人	②	個人ボランティア	人	③		
名称		単位													
①	団体の会員数	人													
②	個人ボランティア	人													
③															
3.意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) 図書館事業への積極的な参画		7.成果指標(意図の達成度合を表す指標)													
4.結果(どんな結果に結び付けるのか) 図書館振興、図書館資料貸出者増につなげる		<table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>①</td><td>例会の開催数</td><td>回</td></tr> <tr><td>②</td><td>ボランティアサークルによる図書館事業実施回数</td><td>回</td></tr> <tr><td>③</td><td>図書館事業個人ボランティア参加回数</td><td>回</td></tr> </table>		名称		単位	①	例会の開催数	回	②	ボランティアサークルによる図書館事業実施回数	回	③	図書館事業個人ボランティア参加回数	回
名称		単位													
①	例会の開催数	回													
②	ボランティアサークルによる図書館事業実施回数	回													
③	図書館事業個人ボランティア参加回数	回													
◇総事業費・指標等の推移 → 事務事業及び各指標の変更 <input type="checkbox"/> 有 (年度から) <input checked="" type="checkbox"/> 無		8.上位成果指標(結果の達成度を表す指標)													
		<table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>①</td><td>図書館資料貸出者数</td><td>人</td></tr> <tr><td>②</td><td>ボランティアサークル行事参加者数</td><td>人</td></tr> <tr><td>③</td><td>図書館事業個人ボランティア参加者数</td><td>人</td></tr> </table>		名称		単位	①	図書館資料貸出者数	人	②	ボランティアサークル行事参加者数	人	③	図書館事業個人ボランティア参加者数	人
名称		単位													
①	図書館資料貸出者数	人													
②	ボランティアサークル行事参加者数	人													
③	図書館事業個人ボランティア参加者数	人													

内 訳		単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (予算・目標)	31年度 (目標)	32年度 (目標)	33年度 (目標)	34年度 (目標)
投入量	国・道支出金	円							
	地方債	円							
	その他(使用料等)	円							
	一般財源	円	222,271	254,452	122,000				
	事業費計(A)	円	222,271	254,452	122,000	0			
	人件費	人	2	2	2				
正職員従事人数	年間	0.1199	0.1225						
人工数(業務量)	円	987,925	952,997						
人件費計(B)	円	1,210,196	1,207,449	122,000	0				
トータルコスト(A)+(B)	円								
活動指標	① 団体		4	4	4				
	② 個人		6	5	5				
	③								
対象指標	① 人		52	51	51				
	② 人		30	29	29				
	③								
成果指標	① 回		93	87	87				
	② 回		15	15	15				
	③ 回		204	190	190				
上位成果指標	① 人		39,047	37,041	38,000				
	② 人		914	948	948				
	③ 人		450	550	550				

◇事務事業の環境変化

1.この事務事業を開始した背景  
平成2年度ボランティアサークルの活動受け入れから開始

2.事務事業を取り巻く状況と今後の予測(どう変わったか、どうなるか)  
各団体、個人が連携した中で、それぞれの特性を生かした活動が行われている。平成30年度から1事業(大人のためのお話し会おはなしポケット)の活動が縮小(偶数月に2回→年3回)することとなった。

事務事業名	図書館ボランティアサークル活動支援事業	所属部門	社会教育課	図書館係
-------	---------------------	------	-------	------

◇町民等からの意見・要望 → 町民の声をどう反映させたのかをシート下段の改善・改革の概要に明記

1.町民等からの意見・要望	<input type="checkbox"/> 意見がある【具体例↓】 <input checked="" type="checkbox"/> 特定できる意見がない
この事務事業に対して、町民からのホットボイスなどの広聴制度、また、議会や関係者からの意見・要望が寄せられているか	
※反映させた具体案はシート下段の改善・改革の概要に明記	

評価の部(See) → 29年度実績からみた評価

目的妥当性評価	1.町の関与の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性はある【理由↓】 <input type="checkbox"/> 必要性はない【理由↓】
	なぜ、この事務事業は税金を投入して、町が行わなければならないのか	毎月定例で事業を実施し、図書館機能の一部となっている
有効性評価	2.対象と意図の拡大・縮小余地	<input type="checkbox"/> 拡大・縮小できる【→改革改善案へ】 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大・縮小できない【理由↓】
	対象・意図を広げたり、逆に狭めたりすることはできないか	自主的な活動への側面支援であるので、こちらから意図的に指示したり、逆に妨げるのは望ましくない
効率性評価	3.成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上できる【→改革改善案へ】 <input type="checkbox"/> 向上できない【理由↓】
	事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができるか	熱意のある会員、団体を中心に周知活動や関連行事などで更に向上させたい
公平性評価	4.廃止・休止・類似事業との統廃合余地	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止・休止・統廃合で影響がある【理由↓】 <input type="checkbox"/> 影響がない【→改革改善案へ】
	事務事業を廃止・休止・統廃合した場合、支障があるか	読み聞かせ、人形劇、広報誌すまいる音訳CD、布絵本の製作など、その活動は図書館運営の一部を担っており、廃止・休止は図書館活動に大きな影響がある
公平性評価	5.事業費(トータルコスト)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減できる【→改革改善案へ】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減できない【理由↓】
	成果を下げずに事業費・業務時間を縮減する手段・方策はないか	町からの報償費は、図書館利用者に提供している音訳CD、布絵本、工作などの成果品の材料費等として使用されており、不足分は自費財源で賄う等、作業は全てボランティア活動として行っていることから、削減の余地はない
公平性評価	6.受益と負担の適正化余地	<input checked="" type="checkbox"/> 受益・負担が適正である【理由↓】 <input type="checkbox"/> 受益・負担が適正でない【→改革改善案へ】
	提供すべき対象へ提供できているか、費用負担が適切になっているか	全てにおいてボランティアなので、適切である

改革・改善の部(Plan) → 上記の町民等の意見・要望や評価結果を受けた改革案・今後(30年度以降)の計画

30年度の取組	1.改革・改善案の概要(現状で想定される課題や解決策がある場合には合わせて記入)	改革・改善実施の方向性																						
	図書館ボランティアサークル4団体に対し活動支援を行う。また研修の機会として平成30年度は砂川市で開催される北海道子どもの本のつどいにボランティアサークルから2名参加し、他市町村のボランティア団体やサークルとの情報交換や交流を図り、スキルアップと今後の活動につなげる。また個人ボランティアのうち本来の直営業務を代行いただく部分の謝金について平成30年度から図書・視聴覚資料の貸出・保存事業の報償費に計上することとなったが、個人ボランティア関連の事務は当事業の中で取り扱うものとしていく。またこれまで当該事業で算定していた図書館まつり関連の費用について、平成30年度から読書活動推進事業で計上することとなった。	目的拡充																						
		2.改革・改善による期待成果	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下	
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
31年度以降の取組	平成30年度と同様																							

※町民等の意見・要望に対する検討結果

事務事業名		読書活動推進事業		事務事業の性格	毎年繰返事業	開始年度 事業期間	昭和 49 年度から 平成 年度まで	
所属 部門	社会教育課 図書館係			課長名	日下 勝祐	担当者名 内線番号	白取 詩絵里 内線 ( 507 )	
総合 計画 体系	基本目標	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり			予算 科目	会計区分	款 項 目	
	政策名	豊かな心を育む人づくりの推進				一般	9 5 3	読書活動推進事業
	施策名	生涯学習の推進				予算上の事業名		

法令根拠 図書館法(昭和25年4月30日法律第118号)

現状把握の部(Do) → 現在やっていること

◇事務事業の目的と効果

1.手段(事業の概要) ・講座の開催(大人、子ども向け) ・ブックスタート事業 ・読書感想文コンクール ・団体貸出 ・展示の開催 ・移動文庫 ・すくすく広場での貸出、読み聞かせ	→	5.活動指標(手段や活動内容を表す指標)
2.対象(何を対象にしているか～人、公共施設、自然資源など) 利用者及び町民		6.対象指標(対象の大きさを表す指標)
3.意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) ・新規登録者の増加 ・乳幼児期から絵本に親しむ機会づくり ・読書を通じた子育て、人づくり ・学校図書館の環境整備・活性化		7.成果指標(意図の達成度合を表す指標)
4.結果(どんな結果に結び付けるのか) ・図書館利用者の増加 ・朝の10分間読書「朝読」の実施による児童生徒の読書の定着		8.上位成果指標(結果の達成度を表す指標)

名 称		単 位
①	事業の参加者数	人
②	学校図書館活動支援	回
③		

名 称		単 位
①	町人口	人
②	登録者数	人
③	町内小中学校児童生徒数	人

名 称		単 位
①	新規登録者数(町内)	人
②	子どもの図書館利用者	人
③	その他団体等事業実施回数	回

名 称		単 位
①	図書館資料貸出者数	人
②	小中学校への団体貸出冊数	冊
③		

◇総事業費・指標等の推移 → 事務事業及び各指標の変更  有 (年度から)  無

内 訳		単 位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (予算・目標)	31年度 (目標)	32年度 (目標)	33年度 (目標)	34年度 (目標)
事業費 投入量	国・道支出金	円							
	地方債	円							
	その他(使用料等)	円							
	一般財源	円	538,805	529,975	1,457,000				
	事業費計(A)	円	538,805	529,975	1,457,000	0			
人件費	正職員従事人数	人	2	2	2				
	人工数(業務量)	年間	0.2109	0.2519					
	人件費計(B)	円	0	1,959,672					
トータルコスト(A)+(B)		円	538,805	2,489,647	1,457,000	0			
活動指標	①	人	12,196	9,992	9,992				
	②	回	1	1	1				
	③								
対象指標	①	人	18,809	18,660	18,660				
	②	人	13,298	13,713	13,713				
	③	人	1,863	1,805	1,805				
成果指標	①	人	298	276	276				
	②	人	6,677	6,171	6,171				
	③	回	314	280	280				
上位成果指標	①	人	39,047	37,041	37,041				
	②	冊	3,161	2,517	2,517				
	③								

◇事務事業の環境変化

1.この事務事業を開始した背景 児童・生徒が読書に親しむことを目的に、昭和49年に読書感想文コンクールを開始した。また、乳幼児期から本に親しむ機会づくりとして、保健福祉課(平成20年度からは、子育て支援課)と連携しブックスタート事業を開始した。	2.事務事業を取り巻く状況と今後の予測(どう変わったか、どうなるか) 利用者数と貸出冊数が減少傾向であり、より魅力のある事業実施や読書に親しむきっかけづくりをしていく必要がある。
---	--

事務事業名	読書活動推進事業	所属部門	社会教育課	図書館係
-------	----------	------	-------	------

◇町民等からの意見・要望 → 町民の声をどう反映させたのかをシート下段の改善・改革の概要に明記

1.町民等からの意見・要望  この事務事業に対して、町民からのホットボイスなどの広聴制度、また、議会や関係者からの意見・要望が寄せられているか	<input type="checkbox"/> 意見がある【具体例↓】	<input checked="" type="checkbox"/> 特定できる意見がない
	※反映させた具体案はシート下段の改善・改革の概要に明記	

評価の部(See) → 29年度実績からみた評価

目的妥当性評価	1.町の関与の必要性  なぜ、この事務事業は税金を投入して、町が行わなければならないのか	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性はある【理由↓】	<input type="checkbox"/> 必要性はない【理由↓】
	読書活動の推進は、生涯学習の一つとして欠かすことのできない事業であり、町が行うのが妥当である。		
有効性評価	2.対象と意図の拡大・縮小余地  対象・意図を広げたり、逆に狭めたりすることはできないか	<input type="checkbox"/> 拡大・縮小できる【→改革改善案へ】	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大・縮小できない【理由↓】
	全ての町民を対象にしている事業であり、継続的に実施することにより成果が期待できる。		
効率性評価	3.成果の向上余地  事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができるか	<input checked="" type="checkbox"/> 向上できる【→改革改善案へ】	<input type="checkbox"/> 向上できない【理由↓】
	事業を行うことにより、潜在的な利用者の掘り起こしを図り新規利用や、貸出の増加につなげることができる。		
公平性評価	4.廃止・休止・類似事業との統廃合余地  事務事業を廃止・休止・統廃合した場合、支障があるか	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止・休止・統廃合で影響がある【理由↓】	<input type="checkbox"/> 影響がない【→改革改善案へ】
	読書推進事業の休廃止は、町民の心の豊かさや生きがいを支援する生涯学習の機会を失うことに繋がる		
公平性評価	5.事業費(トータルコスト)の削減余地  成果を下げずに事業費・業務時間を縮減する手段・方策はないか	<input type="checkbox"/> 削減できる【→改革改善案へ】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減できない【理由↓】
	ブックスタート事業や読書感想文コンクール等は乳幼児期、児童・生徒を対象とした事業であり、その対象者数と比べ事業費自体が小規模であり削減の余地はない。		
公平性評価	6.受益と負担の適正化余地  提供すべき対象へ提供できているか、費用負担が適切になっているか	<input checked="" type="checkbox"/> 受益・負担が適正である【理由↓】	<input type="checkbox"/> 受益・負担が適正でない【→改革改善案へ】
	年少者向け講座については、負担金徴収による受益の公平さより、文字・活字・図書館への導入という目的が優先するとの立場から不徴収としており、現段階では図書館の本旨に沿っているとの考えである。一般対象のもので原材料費や物件費が多額となるものはこれまであまり実施してこなかった。		

改革・改善の部(Plan) → 上記の町民等の意見・要望や評価結果を受けた改革案・今後(30年度以降)の計画

30年度の取組	1.改革・改善案の概要(現状で想定される課題や解決策がある場合には合わせて記入)	改革・改善実施の方向性																							
	開館30周年記念事業を核とし継続実施している読書感想文、事業換えした図書館まつりなどを主に各種事業展開を行い、図書館振興の充実を図る。	現状維持	2.改革・改善による期待成果																						
31年度以降の取組	通常年度に移行するが、平成30年度での事業効果を検証しながら刷新を継続していく。	<table border="1" style="text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
				コスト																					
削減	維持			増加																					
成果	向上		○																						
	維持																								
	低下																								

※町民等の意見・要望に対する検討結果

事務事業名		図書・視聴覚資料の貸出・保存事業		事務事業の性格	毎年繰返事業	開始年度事業期間	平成 元 年度から平成 年度まで		
所属部門	社会教育課 図書館係			課長名	日下 勝祐	担当者名 内線番号	藤澤 英樹 ( 507 )		
総合計画体系	基本目標	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり		予算科目	会計区分	款	項	目	予算上の事業名
	政策名	豊かな心を育む人づくりの推進			一般	9	5	3	図書・視聴覚資料の貸出・保存事業
	施策名	生涯学習の推進							

法令根拠 図書館法(昭和25年4月30日法律第118号)

現状把握の部(Do) → 現在やっていること

◇事務事業の目的と効果

1.手段(事業の概要) 利用者への資料提供(閲覧・貸出) 資料の取得・管理・保存 延滞者への返却督促 蔵書点検	→
2.対象(何を対象にしているか～人、公共施設、自然資源など) 図書館利用登録者、資料、町民	
3.意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) 適切に資料を管理し、利用者へ提供する。	
4.結果(どんな結果に結び付けるのか) 生涯学習支援による利用者の自己学習の充実	

5.活動指標(手段や活動内容を表す指標)

名称	単位
① 開館日数	日
②	
③	

6.対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
① 登録者数	人
② 蔵書冊数	冊
③ 町民	人

7.成果指標(意図の達成度合を表す指標)

名称	単位
① 町民1人当たりの貸出冊数	冊
② 貸出冊数	冊
③	

8.上位成果指標(結果の達成度を表す指標)

名称	単位
① 図書館資料貸出者数	人
② 不明資料数	冊
③	

◇総事業費・指標等の推移 → 事務事業及び各指標の変更  有 (年度から)  無

内 訳		単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (予算・目標)	31年度 (目標)	32年度 (目標)	33年度 (目標)	34年度 (目標)
投入量	国・道支出金	円							
	地方債	円							
	その他(使用料等)	円	1,703,182	1,936,113	1,813,000				
	一般財源	円	23,936,006	24,533,528	24,985,000				
	事業費計(A)	円	25,639,188	26,469,641	26,798,000	0			
	人件費	人	2	2	2				
正職員従事人数	年間	0.5967	0.4811						
人工数(業務量)	円	4,916,553	3,742,749						
人件費計(B)	円	30,555,741	30,212,390	26,798,000	0				
トータルコスト(A)+(B)	円								
活動指標	①	日	291	291	291				
	②								
	③								
対象指標	①	人	13,298	13,713	13,713				
	②	冊	133,092	128,829	129,000				
	③	人	18,809	18,660	18,660				
成果指標	①	冊	9.01	8.80	8.80				
	②	冊	169,498	164,255	170,000				
	③								
上位成果指標	①	人	39,047	37,041	38,000				
	②	冊	137	92	90				
	③								

◇事務事業の環境変化

1.この事務事業を開始した背景 平成元年度図書館開館から	2.事務事業を取り巻く状況と今後の予測(どう変わったか、どうなるか) 臨時職員雇用形態の変更、出版不況、情報技術高度化への対応、高齢者対象サービス、など。
---------------------------------	--

事務事業名	図書・視聴覚資料の貸出・保存事業	所属部門	社会教育課	図書館係
-------	------------------	------	-------	------

◇町民等からの意見・要望 → 町民の声をどう反映させたのかをシート下段の改善・改革の概要に明記

1.町民等からの意見・要望  この事務事業に対して、町民からのホットボイスなどの広聴制度、また、議会や関係者からの意見・要望が寄せられているか	<input checked="" type="checkbox"/> 意見がある【具体例↓】 読書通帳、資料の要望、ほか	<input type="checkbox"/> 特定できる意見がない
	※反映させた具体案はシート下段の改善・改革の概要に明記	

評価の部(See) → 29年度実績からみた評価

目的 妥当性 評価	1.町の関与の必要性  なぜ、この事務事業は税金を投入して、町が行わなければならないのか	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性はある【理由↓】 公共図書館として運営する。	<input type="checkbox"/> 必要性はない【理由↓】
	2.対象と意図の拡大・縮小余地  対象・意図を広げたり、逆に狭めたりすることはできないか	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大・縮小できる【→改革改善案へ】 乳幼児期からの啓発や広域利用の促進により利用者の増大を図ることができる。	<input type="checkbox"/> 拡大・縮小できない【理由↓】
有効性 評価	3.成果の向上余地  事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができるか	<input checked="" type="checkbox"/> 向上できる【→改革改善案へ】 貸出冊数、利用者数を増大させることができる。	<input type="checkbox"/> 向上できない【理由↓】
	4.廃止・休止・類似事業との統廃合余地  事務事業を廃止・休止・統廃合した場合、支障があるか	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止・休止・統廃合で影響がある【理由↓】 類似事業なし。公共図書館事業の廃止は教育と文化の振興に深刻な損失をもたらす。	<input type="checkbox"/> 影響がない【→改革改善案へ】
効率性 評価	5.事業費(トータルコスト)の削減余地  成果を下げずに事業費・業務時間を縮減する手段・方策はないか	<input type="checkbox"/> 削減できる【→改革改善案へ】 選書会議等を経て効率の良い予算執行を心掛けて図書館運営を行っており、予算の縮減は資料構成に大きな影響が及ぶこととなる。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減できない【理由↓】
公平性 評価	6.受益と負担の適正化余地  提供すべき対象へ提供できているか、費用負担が適切になっているか	<input checked="" type="checkbox"/> 受益・負担が適正である【理由↓】 受益者負担非該当事業(図書館法第17条)	<input type="checkbox"/> 受益・負担が適正でない【→改革改善案へ】

改革・改善の部(Plan) → 上記の町民等の意見・要望や評価結果を受けた改革案・今後(30年度以降)の計画

1.改革・改善案の概要(現状で想定される課題や解決策がある場合には合わせて記入)		改革・改善実施の方向性																						
30年度 の取組	図書館資料展示事業を実施し利用者入館者に発信、提案して読書振興に寄与することを目指す。広報活動について民間媒体も大いに活用し図書館事業・サービスの広い周知を目指す。会計年度任用職員制への移行も念頭に置き、臨時図書館司書の資質向上に努め、研修派遣などを行う。魅力的に棚構成のため適正な開架資料数や、棚の手入れを継続する。	目的絞込																						
		2.改革・改善による期待成果																						
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下		
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
31年度 以降の取組	時代の要求に気を配り常に刷新を試行し本来の図書館サービスレベルを維持・更に向上させていく。コミュニティの核としての図書館という新たなニーズへの対応も視野にいれ大胆に慎重に新機能の提案を継続していく。																							

※町民等の意見・要望に対する検討結果

読書通帳実施、資料要望については適否を含めて都度対応。

平成 30 年度

事務事業マネジメントシート  
(簡易シート)

作成日平成 30 年 4 月 19 日

事務事業名	利用者学習・調査支援事業		事務事業の性格	毎年繰返事業	開始年度 事業期間	平成 元 年度から 年度まで
所属 部門	社会教育課	図書館係	課長名	日下 勝祐	担当者名	藤澤 英樹 ( 507 )
総合 計画 体系	基本目標	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり	根拠 法令	図書館法(昭和25年4月30日法律第118号)		
	政策名	豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策名	生涯学習の推進				
簡易シートを 選択した理由	<input checked="" type="checkbox"/> 予算を伴わない事業 <input type="checkbox"/> 計上予算が負担金、繰出金のみの事業		<input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			

〔事業の概要〕  
 利用者の調査研究支援、出版情報や地域資料・地域の情報についての調査支援や相談業務  
 他図書館の資料や情報を必要とする調査の支援  
 学校教育活動の支援や総合的な学習の支援  
 調べ学習の支援

〔改革・改善案の概要〕	改革・改善実施の方向性	現状維持
-------------	-------------	------

貸出・閲覧に並んでこの事業は公共図書館の主要なサービスとなっている。  
 電子情報に簡単にアクセスできる現代だからこそ逆に信頼度の高い図書資料の重要度が増している。  
 館内外の研修を重ね職員の資質向上を目指す。

内 訳		単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (予算)
事業 費	国・道支出金	円			
	地方債	円			
	その他(使用料等)	円			
	一般財源	円			
	事業費計(A)	円	0	0	0
人件 費	正職員従事人数	人	2	2	2
	人工数(業務量)	年間	0.0629	0.0468	
	人件費計(B)	円	518,269	364,084	
	トータルコスト(A)+(B)	円	518,269	364,084	0